

地域のたから東西線編

沿線ぶらり散歩



第4回 青葉山駅

仙台市博物館 学芸普及室長 菅野正道

亜炭と埋木

青葉山に広がる東北大学や宮城教育大学のキャンパスは、周囲を豊かな緑で囲まれています。このキャンパスがたつ標高1500〜200メートルの丘陵地帯は、「青葉山層」と呼ばれる、およそ100〜200万年前に形成された地層の上に展開しています。東西線の青葉山駅は、この青葉山層の下に分布するさらに古くて堅い地層を30メートル以上も掘り抜いた地下6階に作られているのです。

青葉山層の下、数百万年前に形成された地層の中には亜炭が広く分布しています。亜炭は湖や海に大量の植物が堆積し、それが長い年月の間に熱や圧力を受けて炭化した石炭の一種です。ただし、炭化が進んでいないため、火力が低く、燃やすと独特の臭いを発するのと知られています。

青葉山丘陵を含めて、仙台周辺の丘陵地帯の地下には、この亜炭が大量に眠っているの



東北大学キャンパス近くに残る江戸時代の石碑。埋木細工の関係者が建てたものと思われる(写真提供:仙台市民文化事業団)

です。明治以降、仙台では暖房や風呂の燃料として、亜炭が使われるようになり、とくに大正時代から昭和30年代まで市内のあちこちで亜炭が採掘されました。そのころの仙台では、夕方になると風呂や炊事のために燃やされる亜炭が発する独特の香りと薄い紫色の煙が、市街地中に広がっていたのだそうです。

この亜炭の中には、炭化した樹木の幹も含まれています。これを材料にしたのが、かつては仙台の工芸品として全国的に有名だった埋木細工です。仙台藩の足軽が内職として始めた埋木細工は、その材料の供給を亜炭の採掘に頼っていました。したがってガスや石油燃料の普及によって昭和30年代後半から40年代初頭に亜炭が急速に使われなくなると、埋木細工も材料の供給が先細りとなり、次第に衰えていったのです。

御裏林からキャンパスへ

ここまでは、青葉山の地下のことを紹介しましたが、目を地上に転じると、やはり注目されるのはキャンパスの周囲に広がる木々の緑です。江戸時代、青葉山の地は仙台城に続く「御裏林」として、藩の許可を得なければ、樹木の伐採や人が入り込むことが禁じられた場所だったのです。そのため、青葉山一帯は数百年にわたって伐採や開発から守られ、人跡もまれな地として、豊かな自然がはぐくま



れたのです。ところが、第二次世界大戦後の時代の急変に伴って、青葉山も大きく変貌を遂げます。

まず、青葉山の西部が海外から引き揚げてきた人々の開拓地となりました。敗戦後の食料不足を背景に、全国各地の山野が開拓地となり、畑地や牧草地へと姿を変えましたが、青葉山もそうした開拓地の一つだったのです。そして青葉山はさらなる変貌を遂げます。

宮城教育大学と東北大学のキャンパスとなったのです。大学教育の充実が図られる中で、市街地では十分な面積のキャンパスが確保できないとして、新たに設立された宮城教育大学を皮切りに、東北大学の工学部、理学部などが青葉山に移ってきたのです。かつては奥深い緑によって仙台城や城下町を懐に抱え込んでいた青葉山は、「学都」仙台のシンボルというべき地、世界への発信基地と飛躍を遂げたのです。

特別展 国立カイロ博物館所蔵

黄金のファラオと大ピラミッド展

エジプトの至宝、ファラオの「黄金のマスク」、ついに仙台に初登場！
吉村作治氏監修の特別展がこの春、待望の開催。

【観覧料】一般:1,500円(前売1,300円)、高校・大学生:1,200円、小・中学生:800円

●前売券お求め先(4/21(木)まで)●

藤崎、仙台三越、さくら野百貨店仙台店、ローソンチケット(Lコード:25646)、セブンチケット、チケットぴあ(Pコード:767-268)、イープラス、イオン利府店、イオン名取店、イオン仙台中山店、イオン多賀城店、イオン石巻店、イオン仙台幸町店、イオン富谷店、日専連カウターアエル店、ニッセンレン・テラス セルバ店、河北新報販売店、TBCホームページ、仙台市博物館ミュージアムショップ

■主催:「黄金のファラオと大ピラミッド展」仙台実行委員会(仙台市博物館、TBC東北放送、河北新報社) ■監修:吉村作治氏(東日本国際大学学長・早稲田大学名誉教授・工学博士) ■企画制作:TBSテレビ ■協力:国立カイロ博物館、エジプト・アラブ共和国考古省、学校法人昌平堂 東日本国際大学、NPO法人太陽の船復原研究所、日本エジプト学会、早稲田大学エジプト学研究所広報部、独立行政法人国際協力機構(JICA)、カタール航空、ルフトハンザ カーゴAG、日本通運 ■協賛:三井ホーム

4/22(金)

6/26(日)

アメンエムオパト王の黄金のマスク
第3中間期 第21王朝
(前993〜984頃)
国立カイロ博物館蔵



TBC 黄金のファラオ 検索

アメンエムペルムウトの彩色木棺
第3中間期 第21王朝(前1069〜945年頃)
国立カイロ博物館蔵

仙台市博物館
SENDAI CITY MUSEUM

開館時間:午前9時〜午後4時45分(最終入館午後4時15分) ●4月・5月の休館日:毎週月曜日(5/2は開館)

TEL:022-225-3074

〒980-0862仙台市青葉区川内26番地(仙台城三の丸跡)

▶HP <http://www.city.sendai.jp/kyouiku/museum/> ▶ツイッター @sendai_shihaku